

一般研究発表 | 5月21日(土) | ①10:00-12:00、②13:00-13:40 九州大学 伊都キャンパス センターゾーン

	第1会場 2406	第2会場 2308	第3会場 2306	第4会場 2305	第5会場 2304	第6会場 2303
10:00-10:40	日本語における「徳」の意味合いとギリシア哲学の役割について	哲学者は賢くないのか？—ヴィーラントが指摘した「帰属の基本的エラー」—	ハイデッガー『存在と時間』における「非本来的性」の概念	京都学派の天皇論—西田幾多郎と田辺元の論	バーナード・ウィリアムズの道徳批判	意識の表象理論と錯誤主義
	立花幸司	松波烈	丸山文隆	岩井洋子	渡辺一樹	篠崎大河
司会	稲村一隆	三崎和志	加國尚志	竹花洋佑	佐藤岳詩	藤川直也
10:40-11:20	ホッブズにおけるConscienceの問題	デューイの自然主義的形而上学—特に第二章から第四章を中心として	ハイデガーの現存(Anwesen)概念をめぐって	パウル・ベルナイスの超越論的観念論におけるフリース受容	認識的正当化の逆行問題への三つのアプローチ	総称的判断について
	郷家綾	長谷瑞光	上田圭委子	太田匡洋	阿部裕彦	山下智弘
司会	矢嶋直規	森元良太	景山洋平	山根雄一郎	秋葉剛史	植村玄輝
11:20-12:00	概念を総合するための方法を開発し評価する—総合哲学の推進に向けて—		ハイデガーにおける「存在史的思索」の変遷について—1936年から40年まで	政治的出生性と生物学的出生性	信頼性主義、阻却事由、無限後退	道徳的信念の相互依存性の孕む認識論的問題
	寺嶋雅彦		小林昌平	仲井慧悟	飯塚舜	野上志学
司会	中村大介		村瀬鋼	稲原美苗	三木那由他	奥田太郎
13:00-13:40	カントにおける未来概念と非歴史性批判に対する応答	現象学における自然の問題—フッサールとハイデガーにおける自然と大地について—				
	八木緑	金成祐人				
司会	小谷英生	横山陸				

*発表25分/質疑15分を目安とする。

(5月13日更新)

※タイムテーブル最新版は学会ウェブサイトを確認してください。

公募ワークショップ | 5月22日(日) 9:30-12:00 九州大学 伊都キャンパス センターゾーン

タイトル	世界哲学のための言語と論理	動物倫理について哲学的に考える	新しい言語哲学の可能性：応用言語哲学と概念工学	現代哲学として徳を研究する	コロナ禍のトリアージと安楽死の問題—いのちの選別と無益な治療論—
登壇者	納富信留・岡田光弘・岡本賢吾	浅野幸治・鬼頭葉子・田上孝一	藤川直也・和泉悠・鈴木貴之	立花幸司・笠木雅史・飯塚理恵	田坂さつき・安藤泰至・島園進・土井健司
会場	2308	2306	2305	2304	2303